

芳野懐古（梁川星巖）

今來古往事茫茫 石馬無聲抔土荒
春入櫻花滿山白 南朝天子御魂香

今來 古往 事 茫茫

解説 春、桜花の季節に芳野の南朝の御陵で昔を追懐しての作。

石馬 声 無く 抔土 荒る

語釈 ※今來古往Ⅱ古から今に至るまで。 ※茫茫Ⅱぼんやりとして遠いさま。 ※石馬Ⅱ中国で陵墓に立っている石造りの馬。 ※抔土Ⅱ手で掬うほどの土。 一つまみの土。 転じて陵墓の意。 ここでは、後醍醐天皇の塔尾陵をいう。 ※南朝天子Ⅱ後醍醐天皇はじめ南朝の天皇。

春は 桜花に 入つて 満山 白し

通釈 ここ芳野山の塔尾陵に来てみれば、昔から今に至るまでのことは、ただ茫茫としてまるで夢のようである。 陵の前の石馬は嘶きもせず、ひっそりとして荒れはてた、この有様は、まことに勞しいき限りである。 今は

南朝の 天子 御魂 香し

春、桜花の季節になったので、この山は尽く真白で、ほんとに美しい。 ここに眠る後醍醐天皇も、この美しい景色と、花の香を全身に浴び、御魂も香ばしく匂っておられることであろう。